

# サーチウオークが15周年

2015年3月19日号

## 頭と体を使って楽しむ



電柱を見て数字を記入する参加者ら

NTTの札(上の白い札)の表示を手がかりに目標の電柱を探し、東京電力の札(下の札)に書かれた数字を記入する。電柱ごとに得点が決められており、見つけた電柱の合計得点を競って楽しむ。

サーチウオークとは、地図に示された情報をもとに目標の電柱を探し出して得点を競う競技。野山の中で地図上に表されたチェックポイントをたどってゴールまでのタイムを競うオリエンタリングをもっと身近な場所で開催しようという、区内戦野ヶ谷在住の金江宏さん(73)によって15年ほど前に考案された。2001年には栄区サーチウオーククラブが設立され、栄区を中心に研修会や大会などを実施。08年には日本サーチウオーク協会(金江宏会長)が設立され、同協会は昨年NPO法人格を取得。横浜市内を中心に少しずつ広まっている。

栄区発祥の競技「サーチウオーク」が、誕生から15周年を迎えた。3月14日には本郷地区センターを中心に15周年記念大会を開催し、区内外から50人以上が参加。大人子どもも頭と体を使って競技を楽しんだ。

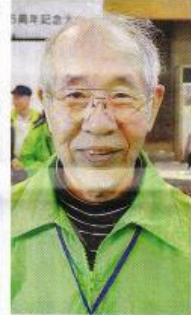


目標の電柱を探し出す。街中を歩き回るオリエンタリングの要素に加え、目標の電柱がどこにあるのか予測するため頭の運動にもつながり、子どもから高齢者まで楽しめる競技となっている。

### 記念大会に約50人

14日の記念大会には、小学生から大人まで50人以上が参加。この日は初心者が多いこともあり、サーチウオークの入門編として考案された「サーチオリ」への参加が大半を占めた。サーチオリの場合は、地図上に目標の電柱の番号だけなく場所も示されているため、気軽にサーチウオークの感覚を楽しめる。参加者は、本郷地区センターをスタートして、地図を片手に区内を歩き回って電柱を探した。指定された目標の電柱を見つけて番号を記入し、最後には同センターへ戻ってゴール。終了後には表彰式が行われ、会場は盛り上がった。今回初めてサーチオリに参加した女子高生は「疲れ

電柱の場所を記録する仕事を請け負ったことをきっかけに、電柱番号の仕組みを競技にできると考えた金江さん。仕事で電柱を探す中で「見つけた時には喜びや嬉しさを感じた」という。もともとオリエンタリングやウォーキングに取り組んでいたこともあり、サーチウオークを考案。「落とした財布を探して見つけた時の喜びが続けて起る感じ。ゆくゆくは全国へ広げていきたい」



日本サーチウオーク協会 金江宏会長

### 見つける喜び広めたい

今回の大会は、栄区から誕生した競技「サーチウオーク」の街中グググにはない楽しさも兼ね備えた。現在はNPO法人日



●栄区サーチウオーククラブの会長を務める

## 栄区発祥の競技を各地へ

### 人物風土記

題字は 林文子 横浜市長

境があることからウォーキングに取り組んでいた。しつなかりを求めて地域活動かし次第に普通のウォーキングではつまらなくなってそのついでに、町内会でのいき、そんな時にサーチウオークイベントの手伝いなどにも関わって参加。今年からは、その通りだった達成感「ぶらっと栄」のサは魅力」というように、地ポーターにも登録して活躍

### 立花 正則さん

犬山町在住 63歳

「サーチウオーク」は、栄区から発祥した競技で、各地に広めていくのがいい。サーチウオークという考えから、地域でのサーチウオークに参加。サーチウオークもサーチウオークの街中グググにはない楽しさも兼ね備えた。現在はNPO法人日